

キスを迫る。
「愛してる」と囁く。
そして、嘘をつく。



ホン・サンス監督
気まぐれな唇
Turning Gate

主演:キム・サンギョン+チュ・サンミ+イェ・ジウォン

2002年 アジア太平洋映画祭[監督賞]／2002年 春史羅雲奎映画芸術祭[助演女優賞][新人男優賞]
2003年 プリスペン国際映画祭[国際批評家連盟賞]

2002年／韓国／35mm／カラー／1:1.85／ドルビーSRD／115分／配給:ビターズ・エンド www.bitters.co.jp/kimagure

R-15

動物園のサルを見たときのような笑いを誘う映画。—— フィルム2.0

3人の男女が織りなす 大人の恋の物語

ハタから見ると笑える
いたって本気のロマンス

ちょっとばかり名の知れた俳優ギョンス(キム・サンギョン)は、期待していた映画を下ろされてしまい、あてどない旅に出る。旅先で出会う2人の女——積極的にアプローチしてくるキスの上手いダンサー・ミョンスク(イエ・ジウォン)、猫のようにスリリとすり抜けるミステリアスな女・ソニョン(チュ・サンミ)。1週間の旅の中で生まれては消える2つのロマンス。男と女の愛の駆け引きがスリリングに、そしてユーモラスに展開する。「愛」にしばられ、もがき、翻弄される主人公たち。自分本位にロマンスを進めようとする様は、どこか滑稽で哀愁に満ちている。男の強がりや女々しさ、女の脆さやしたたかさ——観る者は、そんな彼らの行動や言葉に、自分が経験したことを重ね合わせ「そうそう」とうなずくこと間違いなし。笑えます。

「コーヒーにします?
それとも私のダンスを見ます?」
ミョンスク (職業:ダンサー)

専攻はダンス、
専攻していないのは
スワンボート漕ぎ。
得意技はキス。
大胆不敵な誘惑者。

「人として生きるのは難しい、でも怪物になってはダメだ」

ギョンス

(職業:俳優)

ソウルからチュンチョン、
そしてキョンジュへ。
街は小さくとも女はたくさんいる。
女はすべて自分のもの!という
根っからの女っつらし。

ホン・サンス監督

気まぐれな唇

Turning Gate

2002年/韓国/35mm/1:1.85/ドルビーSRD/115分/R-15
配給:ビターズ・エンド www.bitters.co.jp/kimagure

粋なセリフで語られる
“男の本性・女の本音”

愛を描き続ける奇才ホン・サンスと
次世代スターたちとのアンサンブル

いい加減でどこか憎めない主人公ギョンスを演じるのは、韓国のニュースター、キム・サンギョン。本作の演技が認められ、2003年韓国映画界最大のヒット作「殺人の追憶(原題)」の主演に大抜擢された。ギョンスをひと目で虜にするソニョンには「ソウル・ガーディアンズ 退魔録」のチュ・サンミが、ギョンスに熱を上げるミョンスクにはTVで活躍するイエ・ジウォンがそれぞれ魅力的に扮し、大胆なベッドシーンも披露している。監督は、2003年春これまでの作品がバリエーション豊かに公開され、現在フランスとの合作で新作を撮影中と、その動向が今まさに世界で注目されている韓国の奇才ホン・サンス。鋭い人間観察で“男の本性・女の本音”を鮮烈に切り取ってゆく。批評家やマスコミの絶賛はもとより、ユーモア溢れる粋なセリフで語られる男女の心模様は、若者たちから共感を呼び、本国で大ヒットを記録した。

「わたし結婚してるの」

ソニョン (職業:不明)

多分「イエス」の意味で「ノー」と言う女。彼女が「OK」と言うまで
関係は続く。内心は解説不能なクールな女。

3月、“愛にさまよう”ロードショー!

特別前売ご鑑賞券 ¥1500 絶賛発売中! (当日: 一般 ¥1800の処)

●前売券は、劇場窓口、阪急・阪神・HEP FIVEの各プレイガイド、チケットぴあにてお求め下さい。
●劇場窓口にて前売券をお求めの方には、オリジナル・ポストカードをプレゼント!! (限定)

テアトル梅田のサービスデー 火曜日: 男性の方 ¥1000/水曜日: 女性の方 ¥1000/12月を除く第1水曜日 ¥1000均一(12月は1日)

コマ劇場斜め前 梅田ロフトB1F

テアトル 梅田

06 (6359) 1080

<http://www.cinemabox.com/>